

旧青山本邸企画展

青山家と鮭にしん

The Aoyama Family and the Rise and Fall of the Herring Fisheries in Hokkaido



ニシンの沖揚げで賑わう明治期の祝津 (イラスト:木山由紀子)

期間 2019年 10/12 土 ~ 2020年 9/27 日

EXHIBITION: 12 October 2019 - 27 September 2020

場所 重要文化財 **今**旧青山本邸

National Important Cultural Property; Former Aoyama Residence

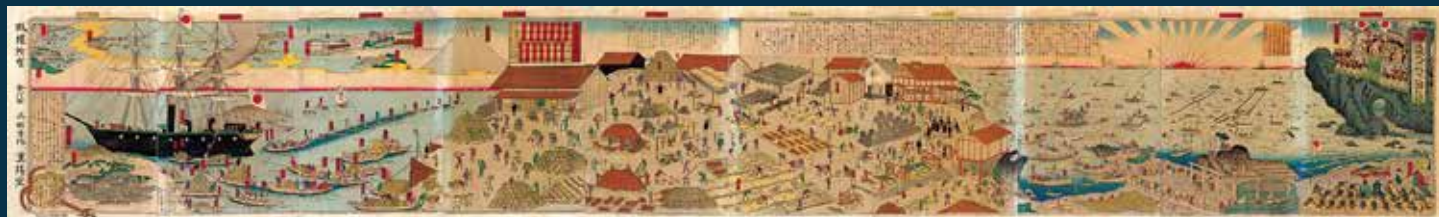
主催・お問合せ 遊佐町教育委員会

tel.0234-72-5892 fax.0234-72-3313

協力:北海道博物館、北海道開拓の村、小樽市総合博物館、よいち水産博物館、小樽貴賓館(旧青山別邸)、祝津たなげ会



北海の漁業王 青山留吉
AOYAMA Tomekichi;
The Herring King of
the Northern Sea



北海道鮭大漁概況之図 明治22年 多色刷り十枚組版画 (遊佐町教育委員会蔵)

大漁

今福丸

青山

北海道開拓の村 旧青山家漁家住宅展示「大漁手拭」(北海道博物館所蔵)

旧青山本邸企画展

青山家と鮭

鮭は、魚に非ずして米なり。

ヨーロッパにおいては、ニシンとタラは重要な資源でした。時には、漁場や交易を巡る紛争が戦争に発展することさえありました。日本では、江戸時代の後期には蝦夷地(北海道)におけるニシン漁が確立し、無尽蔵にとれたニシンは、食料よりもむしろ綿花など農作物の肥料に使用され、日本の近代化に大きな貢献をするとともに、多くのニシン大尽を生み、各地に「ニシン御殿」が建てられました。本町青塚出身で、後志国高島郡祝津(現小樽市)で明治から大正にかけてのニシンの「ゴールド・ラッシュ」に遭遇し、大成功を取めた青山家と茨木家は、白鳥家と並んで祝津の「御三家」といわれました。

明治の末頃から不漁が続くようになり、漁場は次第に北上していきましたが、1950年代には北海道全土ではほぼ捕獲皆無、「幻の魚」となってしまいました。新蔵資料「北海道鮭大漁概況之図」と大型イラスト絵巻「漁業王青山留吉絵伝」(木山由紀子筆)を中心に青山家の漁業関係資料などを展示し、ニシン産業の繁栄と衰退の跡をたどります。



明治期の祝津 青山家豊井漁場



小樽貴賓館(旧青山別邸)



小樽市祝津 茨木家中出張番屋



札幌市 北海道開拓の村 旧青山家漁家住宅



重要文化財 **今 旧青山本邸** National Important Cultural Property Former Aoyama Residence

〒999-8438 山形県飽海郡遊佐町比子字青塚155 tel.0234-75-3145 fax.0234-75-3177

開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館午後4時まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝祭日に当たる場合は翌日休館)、12月29日～1月3日

入館料	個人	一般	400円	団体 (20人以上)	一般	350円
		大学・高校生	300円		大学・高校生	250円
		小・中学生	200円		小・中学生	150円

